

<ネコにマタタビ>ミヤママタタビの報告が少し遅れてしまいました。水路の下流に向かって右側の斜面に高さ1mほどの株があります。ゴールデンウィークの前半くらいまで咲いていました。開いた花もいいですが蕾がとても可愛らしい植物です。ところでマタタビといえばネコを思い浮かべます。人に飼われているネコだけでなくトラやライオンなどのネコ科の動物はマタタビの出す匂いを嗅ぐと恍惚状態になるようです。キウイのようなマタタビ科の植物にもネコは反応するのに、ミヤママタタビは効かないとのこと。マタタビから放たれるマタタビラクトンやアクチニジンという化合物がネコを刺激するとのことですから、ミヤママタタビにはこれらがないのか、あるいは妨害するものがあるのか、化学をやっていた者には気になります。



<ミヤママタタビ>

<エビネ>前号でキンラン、ギンランを紹介しましたが春の丘陵地に咲くエビネも是非楽しみたいランの一つです。花屋でよく見るシンビジウムなどに似た形の花で、色はさまざまあります。群生している姿は見事で、ビオトープのエビネも数年後にはそうなることを期待しましょう。ところでエビネという名は年数を経た塊茎がエビの背のように見えるところから来ているとのこと。



<エビネ>

<よく知っていますね、小鳥たちは>4月の初めに咲いていたウグイスカズラ (No.1) も果実が予想よりずっと早く



大きくなり色づき始めていました。もう少し待てば甘い実が食べられるかと思っていたのですが、ほとんど無くなってしまいました。小鳥たちが知っていた食べたのですね。ただ一つ残っていたものが左の写真がです。見るからに美味しそうです。



<コゴメウツギ>

ところで、5月になると花の数が減ってくるのですが、ウツギたちは頑張っています。ビオトープの西斜面に白い小さな花を咲かせているのはコゴメウツギです。

(文と写真：松本正勝)